

令和7年度

みえDX

トライアルサポート

事例集

DXによる改革の一歩を今ここから

## 事業概要

県内中小企業等を対象に、DXの必要性の理解から、現状把握・課題整理、目標設定、デジタルツールの選定・活用までを専門家が伴走支援しました。事業期間中は、オンラインや対面での定期面談、ビジネスチャットを用いた随時相談に加え、オンデマンド講座の提供を行いました。また、支援のプロセスや成果について効果測定を実施し、その結果を踏まえて継続的な改善や、将来的な自走に向けた取組もサポートしました。

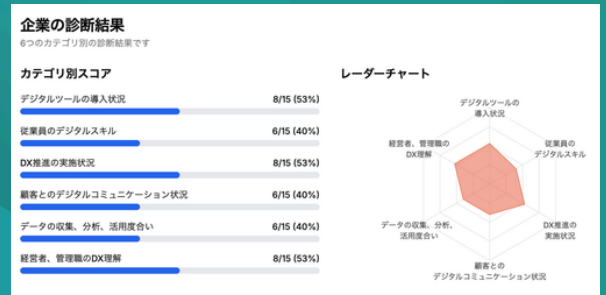
## DX推進状況

組織の多角的な視点から自社の立ち位置を分析し、現在のDX推進状況を以下の6つの観点から、総合的に把握しました。

- 1. デジタルツールの導入状況
- 2. 社員全体のデジタルスキル
- 3. デジタル施策の実施状況
- 4. 顧客対応のデジタル活用度
- 5. データ収集、分析、活用度
- 6. 経営者、管理職におけるDX理解

自社の強みを再確認するとともに、目標とのギャップから『今、取り組むべき具体的な課題』を明確化しました。

DX進捗診断結果サンプル



## CONTENTS

### 事例紹介

専門家の伴走支援を受けてDXに取り組んだ事業者における、DXの課題やデジタルツールの効果についてご紹介します。



- 01 オーケースデリカ株式会社（桑名市）  
在庫管理とピッキング業務のデジタル化による業務効率化 ..... 1
- 02 株式会社フレンズ（松阪市）  
日報のデジタル化とInstagram採用情報強化 ..... 2
- 03 生川建設株式会社（四日市市）  
デジタル化による業務日報の高度化と見積作成のAI活用 ..... 3
- 04 アイドゥ株式会社（四日市市）  
販売管理データの一元化と営業支援ツールによる強化 ..... 4
- 05 一般財団法人三重県環境保全事業団（津市）  
生成AI活用による組織的な業務効率化 ..... 5
- 06 久居運送株式会社（津市）  
システム連携による業務効率化 ..... 6
- 07 株式会社アクア（菰野町）  
SNS強化による販路拡大と労務・生産管理の効率化 ..... 7
- 08 明和町商工会（明和町）  
生成AIの活用による補助金申請支援業務の効率化と展示会成果の可視化 ..... 8

## オーケーズデリカ株式会社

給食・弁当等製造販売業

所在地 三重県桑名市蓮花寺396番5

従業員数 約230名



HPはこちら



### テーマ

## 在庫管理とピッキング業務のデジタル化による業務効率化

### DXチャレンジのきっかけ

事務部門のデジタル化が進む一方、現場の在庫管理はアナログなままでした。在庫数を確認するために、その都度白衣に着替えて冷蔵庫まで目視に行くといった移動ロスが常態化しており、この「現場の当たり前」となっている非効率を解消したいと考えたのがきっかけです。外部の専門家による伴走支援を受けることで、自社の運用に真に適したデジタル化の形を見極めたいと考え、本事業への参加を決意しました。

### 具体的な課題

#### 01 在庫管理の非効率

1000品目以上の原材料を紙とExcelで管理しており、月末の棚卸にも多くの人員と作業時間を要している。

#### 02 ピッキングの効率化

紙ベースの作業のため指示書の作成に時間を要し、チェック漏れ等によるミスも生じている。

### 伴走支援取組内容

#### 在庫管理システム試験導入

複数システムの比較や無料トライアルを実施し、全社導入の前に小規模部門での試験的な導入に向け検討。

#### ピッキングシステムの構築支援

ミスの解消や作業の効率化を図るためのバーコードを活用したピッキングシステムの開発に向け、課題抽出やシステムの要件定義を検討。

### 得られる成果（未来予測）

- ✓ 棚卸時間の削減や在庫の可視化
- ✓ ピッキングの効率化・ミスの未然防止

### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

今回の支援を通じて、自社の業務フローやDXへの要望を客観的に整理でき、具体的なシステム提案をいただけたことが大きな収穫でした。専門家との対話により、現場の課題やデータ活用の方向性が明確になった点は非常に印象的です。現在は支援内容をもとに、自社に最適な導入形態を引き続き検討しています。一足飛びの導入ではなく、着実にステップを踏むための重要な指針を得ることができました。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXはツールの導入がゴールではなく、まずは自社の課題を正しく認識することから始まると実感しました。現場の当たり前の中に潜む非効率を、外部の視点を借りて可視化するだけでも大きな一歩です。たとえすぐにシステム導入に至らなくても、業務を整理し、自社に最適な形を慎重に見極めるプロセス自体が、次の一手を打つための確かな土台となります。まずは現状を見つめ直し、自社に合った歩みを進めていくことをお勧めします。



HPはこちら



### テーマ

## 日報のデジタル化とInstagram採用情報強化

### DXチャレンジのきっかけ

当社は飲食FC店舗を18店舗運営していますが、店舗ごとに業務手法や人材育成の進め方が異なり、ノウハウの属人化や情報共有の遅れが課題となっていました。人材不足や離職増加が続く中、経験や勘に頼る運営には限界を感じ、多店舗運営を支える人材育成と人材確保の仕組みづくりが必要と認識しました。そこで業務や育成状況のデータ可視化や採用プロセスのDXを進め、持続的に成長できる店舗運営体制の構築を目指しDXに取り組むことを決めました。

### 具体的な課題

#### 01 日報集計の負担と情報共有の効率化

紙ベースの各店舗の日報集計や情報共有経路が異なり非効率な作業で担当者の負担が大きい。

#### 02 Instagram活用の低迷

外注している採用促進のInstagramのフォロワーやインプレッションが少なく、採用サイトへの流入に繋がっていない。

### 伴走支援取組内容

#### 日報のデジタル化

Googleフォーム 店舗入力

スプレッドシート 自動集計

Looker Studio 可視化

Google Workspaceを活用した一貫的な情報共有を検討。

#### Instagram更新内製化による発信強化

インサイト分析  
現状把握

20案作成  
カレンダー化

内製化体制  
運用定着

更新頻度の増加を目指すための更新手順のマニュアル化を検討。

### 得られる成果（未来予測）

- ✓ 日報集計にかかる所要時間の**縮小**
- ✓ Instagram **フォロワー**や**インプレッションの増加**

### DX推進度の変化

DX推進企業

67%  
Before

DX先進企業

84%  
After

+17%

~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

伴走支援を通じ、これまで経験や勘に頼る部分が多かった業務を客観的に見直す貴重な機会となりました。データ可視化や勤怠・シフト管理の仕組みづくり、AI自動面接の導入検討などを通じて、店舗運営や人材確保の課題を整理することができました。DXは特別な技術ではなく、日々の業務を見直し改善を積み重ねる取り組みであると実感しています。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXと聞くと大きなシステム導入を想像しがちですが、まずは自社の業務や課題を整理し、現状を可視化することが第一歩だと感じました。当社でもデータ可視化や勤怠・シフト管理の見直し、AI活用の検討など小さな取り組みから始めました。完璧を目指すよりも、できることから一歩踏み出すことがDX推進につながると思います。



HPはこちら



### テーマ

## デジタル化による業務日報の高度化と見積作成のAI活用

### DXチャレンジのきっかけ

DXの必要性は感じていましたが、何から着手すべきか分からず悩んでいました。みえDXトライアルサポートで伴走支援が受けられることを知り、改善のチャンスだと考えました。自社の課題整理と方向性の明確化を目的に参加しました。

### 具体的な課題

#### 01 日報有効活用

グループウェアによる日報の閲覧が情報として共有、蓄積されにくく、迅速な社内での意思疎通やナレッジ共有に活かされていない。

#### 02 見積作業の効率化

不完全な図面から現場状況を推測し、過去の膨大な実績から類似単価を探し出し、概算見積もりを算出する必要があり、作成に多くの時間を要している。

### 伴走支援取組内容

#### 📄 日報業務運用改善

既存のシステム基盤を活用しPower Platformへ移行することにより、日報内容を蓄積しAIが解析して緊急度を判定し、重要情報を上長へ自動通知する仕組みを検討。

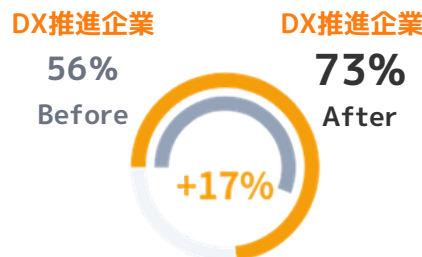
#### 📊 図面積算ツールとAI検索の導入

図面から面積を自動計測するツールの導入や、過去の膨大な見積データから検索するAIを導入することにより、経験が浅くても積算可能な仕組みを検討。

### 得られる成果（未来予測）

- ✔ 従業員のナレッジ共有の**迅速化**と課題の追跡で**実行力のある組織**
- ✔ 概算見積作成**リードタイムの短縮**

### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

DXは難しいものだと思っていましたが、実際に取り組んでみると身近な業務から改善できることが多いと気づきました。専門家の支援を受けることで、会社としての方向性も明確になり、前に進むきっかけになりました。まずは小さな一歩を踏み出すことが大切だと思います。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXは特別なことではなく、日々の業務を見直すことから始められます。小さな一歩でも確実に変化につながるので、ぜひ一度取り組んでみてほしいです。専門家に相談するだけでも、会社の課題がはっきりし、視野が広がり前進できます。



HPIはこちら



### テーマ

## 販売管理データの一元化と営業支援ツールによる強化

### DXチャレンジのきっかけ

当社は医療用食品を主に病院等のBtoB顧客に販売しており、現在はオフィスツールを使用した個別病院レベルの管理を行っていますが、よりシステム化された顧客管理システムを導入し、営業活動を中心にDXを強化したいと思いつい参加を決めました。

### 具体的な課題

#### 01 データ整理工数の効率化

主要卸業者の異なるデータ形式の表記揺れを整理する作業が煩雑で、リアルタイムな実績把握が困難。

#### 02 営業活動の体系化

訪問後のフォローや価格調整といった「追客」が体系化されていないため、放置案件による機会損失が発生。

### 伴走支援取組内容

#### データ統合の標準化

複数卸データの名寄せや表記揺れの解消を目指す外部システムの活用を検討。

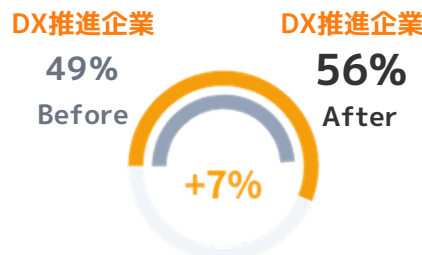
#### 営業支援ツール構築

次のアクションの自動アラートやターゲットリスト生成の仕組みにより、経験や勘に依存しない体系的な営業体制を目指す営業支援ツールの導入を検討。

### 得られる成果（未来予測）

- データ活用で市場変化を捉える  
**「先行予測型」**の意思決定の実現
- 勘と経験に頼らない  
**「データドリブン営業」**  
による売り上げ向上

### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

私は意見を言っただけでしたが、非常にクリアにきれいにまとめていただき、業務の見える化により何を標準化すべきかが見えてきました。何が問題であるか。何をまとめないといけないかを自身も再認識したところがあります。ぜひ補助金も活用してソフトを入れていきたいと考えています。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

第三者との現状の共有により自社の問題が客観的に見えるようになりました。DXを進めるには外部からの視点も重要と感じたので、まずは相談することから始めてもらえればと思います。

# 事例紹介 05

## 一般財団法人 三重県環境保全事業団

環境保全事業

所在地 三重県津市河芸町上野3258

従業員数 111名



HPIはこちら



テーマ

### 生成AI活用による組織的な業務効率化

#### DXチャレンジのきっかけ

DX推進グループが発足したことを機に、本格的なDXへの取り組みをスタートしました。業務時間の削減や職員がより創造的な業務に集中できる時間を生み出すことを目指す中で、自分たちだけでは気づけない効率化の可能性があると感じ、専門家による伴走支援の必要性を認識しました。また、DXを組織全体へ浸透させるという課題の解決に向けたサポートを求め、本チャレンジへの参加に至りました。

#### 具体的な課題

##### 01 AI活用の停滞

職員の生成AIの活用が少なく、機能は知っているも実務への応用方法や運用ルールが不明確となっている。

##### 02 情報検索の複雑化

マニュアルや規定の数が膨大なため、問い合わせ対応や関連情報の検索に時間を要している。

#### 伴走支援取組内容

##### 総務部でのAI実務トライアル

総務部をAI活用先行モデルとして会議資料や議事録作成等の活用事例を作成し、その成果とノウハウを他部署へ横展開することで、組織全体の業務効率化について検討。

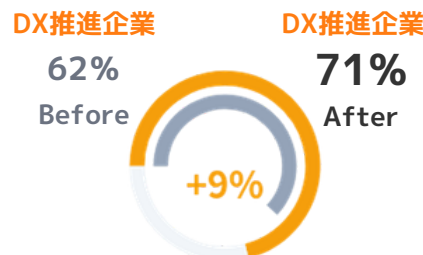
##### ナレッジベース構築

規程やマニュアルをAIに学習させ、チャットで即時回答する仕組みを構築し、学習資料の精査等による検索精度の向上や職員の活用定着方針を検討。

#### 得られる成果（未来予測）

- 資料・議事録作成時間  
最大 **約80%削減**（トライアルから推測）
- RAG機能活用**による  
検索時間の**縮小**

#### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

#### 企業担当者の声

専門家との対話を重ねる中で、自分たちでは気づけなかった視点やアイデアをいただけたことが、今回の大きな学びとなりました。伴走支援のおかげで取り組みへの責任感と主体性が高まり、チームとしての意識向上にもつながりました。スケジュールがタイトな状況でも最後まで柔軟かつ丁寧に支援いただき、しっかりと道筋をつけていただけたことに感謝しております。

#### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

伴走支援を最大限に活かすためには、受講前の準備がとて大切です。支援期間中はどうしても時間が限られるため、「なんとなく受けてみよう」という気持ちだけでスタートしてしまうと、何をすべきか整理できないまま時間が過ぎてしまうことがあります。「この課題を解決したい」という具体的な目標を事前に決めておくことで、支援の質がぐっと高まります。



HPIはこちら



### テーマ

## システム連携による業務効率化

### DXチャレンジのきっかけ

運送業の統合システムが欲しかったのですが、現行の運送業システム、デジタコ、在庫管理システム以外は、エクセルデータ管理をしていたので、連携が取れるようにしたかった。また、データ入力の手入力となっている部分が多かったので、データ取り込みで、手入力の削減を図り、効率化したかった。

### 具体的な課題

#### 01 システム間のデータ連携

デジタコメーカーと基幹システムとの連携が不十分なため、データの入出力等が非効率となっている。

#### 02 データ解読の効率化

デジタコから収集するデータが不完全なため、事務担当者によるデータの解読や修正作業に多くの時間を要している。

### 伴走支援取組内容

#### システム運用見直し

ベンダーとの連携を強化し、各システムの機能や役割を明確化するとともに、システム間での効率的なデータ入出力の仕組みの構築を検討。

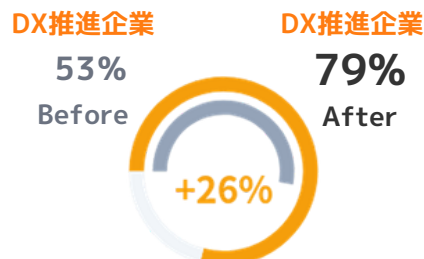
#### 収集データの精度向上

システム操作方法やデータの確認手順の標準化を進めることでヒューマンエラーの防止を図るとともに、データ精度の向上のためのルールを検討。

### 得られる成果（未来予測）

- データ連携のさらなる**効率化**
- 業務標準化による**属人化の解消**

### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

現状調査を進めるうえで、特にデジタコデータをうまく運送業システムに取り込めていなかったことが判明しました。また、デジタコデータそのものの利用も限定されていて、一部しか利用できていなかったことがわかり、改善する見通しが立ちました。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXをあまり難しくとらえずに、気楽にシステムの専門家に現状調査をしてもらうことが大事です。その上で、業務の無駄の発見や効率化への方策が見つければ、改善が見えてきます。業務の流れややり方をシステム的な見地で見てもうことが大事だと思いました。



HPはこちら



### テーマ

## SNS強化による販路拡大と労務・生産管理の効率化

### DXチャレンジのきっかけ

農業の生産管理、福祉の事務、従業員の労務と5年ほど前から忙殺され悩んでいました。一度、自分で色々と調べ、県にも相談しましたが、要求しているところが特殊なところもあり汎用のツールでは対応が難しいとわかり断念しましたが、今年度、県からのDXサポートの案内があり、参加を決めました。

### 具体的な課題

#### 01 Web集客導線の未整備

SNS活用が進まず、外部ECサイトに依存しているため、自社独自の顧客獲得やリピート化の仕組みが整っていない。

#### 02 労務管理や生産計画・収穫予測の効率化

タイムカードの集計作業の軽減や、紙による栽培管理や記録をデータ化し、生産計画や収穫予測を行うためのデジタルツールの導入を検討。

### 伴走支援取組内容

#### 01 SNS活用による認知拡大

InstagramやLINE特典の活用により顧客獲得する導線を設計するとともに、ECサイト購入へ繋げる仕組みを検討。

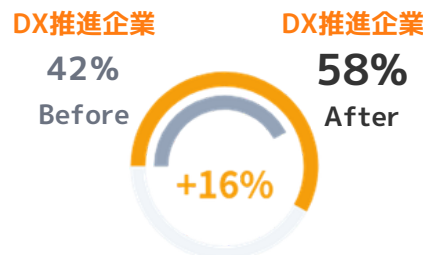
#### 02 クラウドツール導入や栽培管理のデジタル化検討

打刻から給与計算まで一元管理できるクラウドツールや、栽培管理や気候管理のためのデジタルツール活用を検討。

### 得られる成果（未来予測）

- ✔ SNSの活用により認知拡大による **リピーターの創出**
- ✔ ツール導入による **労務管理工数削減と収穫ロス低減**

### DX推進度の変化



~30%：DX準備企業 ~79%：DX推進企業 ~100%：DX先進企業

### 企業担当者の声

まずは、今の農業、福祉、その他の業務の困りごとやどうしたいかを整理していただき、そこにデジタルツールを用いて、改善できるところを明確にさせていただきました。全てをすぐに導入していけるものではないが、自動化への道筋が分かったことで、出来る範囲、実践していけると感じました。また、営業活動は自社の最も弱いポイントで、導入したLINE公式アカウントを含めた全体的な販売戦略を計画出来たところは成果でした。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

デジタルツールは多種多様だが、自社の業務内容には必ずしも合致するものは少なかったです。まずは課題の整理、どうしていきたいかを明確にすることで、汎用ツールを一部使うのか、費用をかけてオリジナルのツールをつくるのかなどの判断にとっても役立つことが分かりました。日々の業務に追われる中でも、まずは課題の整理が重要だと感じました。



HPIはこちら



### テーマ

## 生成AIの活用による補助金申請支援業務の効率化と展示会成果の可視化

### DXチャレンジのきっかけ

業者支援としてDX推進を後押しする立場にある一方で、自組織内のDXは具体的に進んでいるとは言い難い状況でした。そのため、まずは自ら実行に移すことで、取り組みのきっかけづくりになると考えました。

### 具体的な課題

#### 01 補助金申請支援の工数過多

補助金申請資料の作成に不慣れな事業者が多く、指導時のポイントの整理や添削に膨大な時間を要している。

#### 02 展示会成果の不透明化

成果が交換した名刺数という傾向があり、正確な商談数や進捗が追えず効果測定が困難となっていた。

### 伴走支援取組内容



#### AIを活用した採択事例の分析・要点整理

過去の補助金採択事例から「勝ち筋」を分析し、資料作成の要点を押さえたヒアリングシートを作成するとともに、添削や仕上げに生成AIを活用することで精度向上と業務効率化を検討。



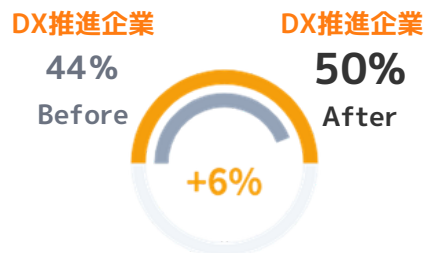
#### 名刺管理ツールの導入検討

名刺の管理や商談の進捗管理まで出来るツールの導入を検討。

### 得られる成果（未来予測）

- 申請書作成支援業務の**時間削減**
- 展示会商談データの**可視化**

### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

### 企業担当者の声

サポートを受け、現状の業務フローからボトルネックを洗い出し、ITツール活用を前提とした改善プロセスを特定しました。その過程を職場全体で共有したことで、課題を組織全体の問題として認識でき、有意義な取組となりました。

DX推進には、従来の当たり前を見直し、解凍・変革・再凍結を前提とした組織風土の醸成が最も重要であると実感しました。

### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DX推進は、これまで培ってきた「当たり前」を見直し、変えていく勇気が求められる取組です。何よりも重要なのは、それを自分事として捉え、自主的に行動する姿勢です。そうした挑戦の先にこそ、それにふさわしい成果が生まれると信じ、まずは最初の一步を踏み出してください。

お問い合わせ

[発行]  
三重県雇用経済部産業イノベーション推進課  
〒514-8570 三重県津市広明町13番地

[ TEL ] 059-224-2318

[ Mail ] [sougyo@pref.mie.lg.jp](mailto:sougyo@pref.mie.lg.jp)